



週休3日制の可能性？

政府が6月18日に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針2021」（骨太の方針2021）の中で、「選択的週休3日制度」の啓発促進が謳われました。この件は報道でも注目されましたが「週休3日制」に触れたのは、本文38ページに及ぶ長大な政策集のうちの一部に過ぎません。ビジネスマンにとってインパクトがあったので注目を集めたのでしょう。

骨太の方針は全体として「グリーン」「デジタル」「活力ある地方創り」「少子化対策」を「日本の未来を拓く4つの原動力」としています。その「4つの原動力」を支える基盤づくりとして10項目が挙げられ、そのうちのひとつ「多様な働き方の実現に向けた働き方改革の実践、リカレント教育の充実」の中の政策として、例えばジョブ型正社員、兼業・副業の普及・促進、などと並んで触れられています。これらをまとめて、「働き方改革」の「フェーズⅡ」と謳う、という構成になっています。

しかし、有休の取得率で長年先進国の中でも最低クラス（2019年実績で50%程度）に甘んじる日本では、一方で週休3日制どころか「完全週休2日制」でも2020年の調査で全体の45%程度にとどまっており、従業員30人～99人という規模の企業では40%をわずかに超える程度に過ぎません。男性の育児休暇の浸透もこれからの課題です。

まずは有休の取得率100%達成や男性の育休取得の拡大など、「休む権利」の行使がしやすい環境を作ること、そして「完全週休2日制」のさらなる一般化を図るべきです。「週休3日」はその先の話に思えるのですが、いかがでしょうか？



サ

ル